

荒野の用心棒

Per un Pugno di Dollari

セルジオ・レオーネ

1964 / イタリア・スペイン・西ドイツ



DVD
「荒野の用心棒」完全版 スベ
シャル・エディション
ジェネオン・ユニバーサル
5985円 (3枚組)

黒澤明監督の傑作時代劇「用心棒」を翻案し、1960年代イタリア製西部劇(マカロニ・ウエスタン)の一大ブームを築き上げたセルジオ・レオーネ監督の出世作。

ある日、ニューメキシコ国境の小さな町サン・ミゲルに、ジョーと名乗る風来坊のガンマンが現れる。そこは無法者のロホ兄弟と保安官のバクスター家という二つの暴力集団が、町の支配権を巡って対立している無法地帯だった。ジョーはそのたぐい稀な早撃ちの腕前で自身を助っ人として売り込みつつ、巧みに両陣営の抗争を煽っていく……。

出演は、クリント・イーストウッド(ジョー)、リアンネ・コッホ(マリソル)、ホセ・カルヴォ(カルロス)、ヨゼフ・エッガー(棺桶屋ビリベロ)、ジャン・マリア・ヴォロンテ(ラモン・ロホ)、ヴォルフガング・ルスキー(ジョン・バクスター)ほか。

マカロニ・ウエスタンが世界的に知られるようになったのは本作のアメリカ公開(67)における大ヒットから。そして、1970年代にかけて量産されたマカロ

地獄の決斗(66)と合わせて「ドル箱三部作」とも呼ばれている。

リアンネ・コッホはミュンヘン出身で、1950年代から60年代にかけて、西ドイツを代表する女優として知名度を誇ったが、その後引退し、医師として活躍した。

ジャン・マリア・ヴォロンテはミラノ出身。「夕陽のガンマン」(65)でギャングの頭目を熱演して以降、国内外の多くの映画に出演。タヴィッド・デイ・ドナテッロ賞の主演男優賞、カンヌ国際映画祭男優賞、ベルリン国際映画祭銀熊賞など多くの賞に輝き、1991年にはその生涯における業績を表彰して、ヴェネツィア国際映画祭栄誉金獅子賞が贈られた。

ニ・ウエスタンの中で、今なお代表作として本作を挙げる人が多い。

従来の西部劇になかった暴力シーンを多用した乾いた作風や激しいガンフアイトは、「マカロニ」の定石となり、やがては本場アメリカ製西部劇にも大きな影響を与えることに。

監督のセルジオ・レオーネは、ローマ出身。「ロード島の要塞」(61)で映画監督としてデビュー。その後、黒澤明「用心棒」(61)への感銘をきっかけに、ウエスタンの道へ。

クリント・イーストウッドは、サンフランシスコ出身。1959年放映開始のTV西部劇「ローハイド」で主演し、人気を確立。ロデイというカウボーイを演じる。64年、レオーネ監督にイタリアに招かれ、本作に出演。くわえ葉巻でポンチヨをまとう髭面のニヒルなキャラクターはたいへんな人気を呼び、イーストウッドをスターダムにのし上げた。

本作同様イーストウッド主演で、レオーネが後に監督した作品「夕陽のガンマン」(65)、「続・夕陽のガンマン」

当初レオーネは、ジョン・スタージエス監督「荒野の七人」(60)に出演したチャールズ・ブロンソンやジェームズ・コバーンといったハリウッドスターを主演に考えていた。が、出演費用が高過ぎたため断念し、代わりに、当時TV西部劇でブレイク中だったイーストウッドに白羽の矢を立てた。その他、ドイツ人のリアンネ・コッホ、イタリア人のジャン・マリア・ヴォロンテなど、各国から俳優を掻き集めて製作がスタート。

アメリカ西部劇の音楽がフル・オーケストラ演奏だったのに対し、マカロニ・ウエスタンではしばしばエレキギターが使われる。本作でも、巨匠エンニオ・モリコーネの曲がたっぷり楽しめる。





夕陽のガンマン

Per Qualche Dollaro in Più

1965 / イタリア・スペイン・西ドイツ
セルジオ・レオーネ



ブルーレイ
「夕陽のガンマン」
20世紀フォックス ホーム
エンターテインメント
2500円

「荒野の用心棒」(64)のイタリアでの大ヒットで実力を認められたレオーネが、前作を大幅に上回る予算で製作した作品。

殺人犯インディオを追って、射撃の名手で名高い賞金稼ぎのモーターイマー大佐と、新顔の賞金稼ぎ「名なし」(モンコ)がエル・パソの町にやってくる。インディオ一味に潜入するために、同じ目的を持つ二人は、時に協力しながら、時にお互いを出し抜きながら、ギャングの頭目エル・インディオを追いかけていく……。

出演は、クリント・イーストウッド(モンコ)、リー・ヴァン・クリーフ(ダグラス・モーターイマー大佐)、ジャン・マリア・ヴォロンテ(ギャングの頭目エル・インディオ)、クラウス・キンスキー(インディオの手下)ほか。
ロケの大部分はスペインのアルメリ



ア地方で行われ、エル・パソの町並みのセットが、タベルナス砂漠の入り口に作られた。スペインの城砦のような「エル・パソ銀行」など、セットは今も原形を保ち、「ミニ・ハリウッド」と呼ばれて観光客を集めている。

イーストウッドが演じる主人公の名「モンコ」はイタリア語で「不具者」「片端」を意味。劇中、銃を撃つ時しか右手を使わず、薬巻に火を付ける、ホテルで記帳するといった所作ほとんどを左手で行っている。

レオーネ監督はモーターイマー役にヘンリー・フォンダを希望していたものの、監督自身がほとんど無名であったためスーパースターのフォンダの起用は実現せずに終わる。しかし、フォンダは後に「ウエスタン」(68)に出演、レオーネの念願が叶うことに。

代わって白羽の矢を立てたのが、当時、半ば俳優業から引退状態にあったリー・ヴァン・クリーフ。彼の役者としてのキャリアは、ブロードウェイ・ミュージカルの端役など主に舞台俳優として始まった。映画初出演はフレッド・ジンネマン「真昼の決闘」(52)。その後、映画俳優としてのキャリアを積んでいくが、レオーネに見出され、本作で復讐に燃える初老の賞金稼ぎを好演して一躍スター俳優のし上がる。以後「続・夕陽のガンマン」/「地獄の決闘」(66)、「怒りの荒野」(67)、「西部悪人伝」(69)、「西部決闘史」(71)といっ

た作品に出演。

一方、麻薬中毒の凶暴なギャングを熱演しているジャン・マリア・ヴォロンテは、舞台仕込みの演技が映画のキヤラクターとしては大げさに過ぎるとして、撮影中何度もレオーネから注意され、抑えた演技をするよう指導されたという。レオーネ監督の二作で名声を高めたヴォロンテであるが、マカロニ・ウエスタンでの悪役に嫌気が差していたといい、本作の後、政治映画などに転向していくことに。

ギャングの手下役のクラウス・キンスキーは、ポーランド出身、ドイツで活躍した名優。セルジオ・コルブッチ監督「殺しが静かになって来る」(68)、ヴェルナー・ヘルツォーク監督の「アギーレ/神の怒り」(72)、「ノスフェラトゥ」(79)などに出演。ナスターシャ・キンスキーの父親としても知られる。趣味のいい服装でいかにもプロフェッショナルなモーターイマー大佐。大佐の計画通り動くふりをしつつ、なんとか出し抜こうとするポンチョ姿の風来坊モンコ。そして、さらにその上をいく凶暴な策士インディオ。運命を交差させつつ荒野で生き抜く三人の男たちの丁々発止が何とんでもこの映画の面白いところ。決闘シーンや山場も随所に配置され、バランスのいい作品に仕上がっている。
音楽はもちろん、エンニオ・モリコーネ。

続・夕陽のガンマン／地獄の決斗

Il Bronco, il Brutto, il Cattivo

セルジオ・レオーネ

1966 / イタリア



ブルーレイ
「続・夕陽のガンマン」
20世紀フォックス ホーム
エンターテインメント
2500円

クエンティン・タランティノーが、「今まで見た中で最高の映画の一つ」と評した名作。

南北戦争の混乱の中、賞金稼ぎのブロンデーは指名手配の悪党と結託して荒稼ぎをしていた。そんな折、巷で話題になっていた20万ドルを盗み隠した男の死に出会い、ブロンデーたった一人が、金の隠し場所を訊き出す。隠された20万ドルを巡り、果ては軍隊までが欲望を露わにする中、三人のガンマンが壮絶な争奪戦を繰り広げる……。

タイトルは英語、イタリア語ともに、「善玉、悪玉、卑劣漢」という意味で、登場する三人のガンマンを表現。

出演は、クリント・イーストウッド（善玉ブロンデー）、リー・ヴァン・クリーフ（悪玉エンジェル）、イーライ・ウォラック（卑劣漢トゥーコ）ほか。

イーライ・ウォラックはニューヨーク出身で、ブロードウェイなどの舞台に立ち、1951年にはトニー賞を受賞。56年に映画デビュー、ジョン・スタージェス「荒野の七人」（60）や本

作で悪役を演じ、強烈な印象を残した。その後も、フランシス・フォード・ Coppola「ゴッドファーザーPART III」（90）、オリヴァー・ストーン「ウォール・ストリート」（10）などアメリカ映画を中心に出演を続けている。

この映画でレオーネ監督は、非常に特徴的な演出をしている。たとえば、会話の少なさ。冒頭の10分間は何の会話もなく、映画中のセリフのほとんどはトゥーコのもの。

そして、映画史の中でも有数のクライマックスとされる三人のガンマンの決闘シーン。レオーネ監督は、長いシーンを使って、決定的瞬間への道のりをゆっくりと築き上げていく。また、登場人物の緊張した心理状態を表現するとともに、観ている側をスクリーンに引き込むために、三人の眼と手への極端なクローズアップと遠景ショットを対比させるテクニクを使用。

一連のシークエンスを盛り上げるのは、レオーネ作品に常連のエンニオ・

モリコーネ。まず、目当ての墓標を探してトゥーコが走り回るシーンのバックは、有名な「エクスタシー・オブ・ゴールド」（原題：L'Estafetta）。ヘヴィメタル・バンド「メタリカ」のライヴではオープニングに必ずかかる曲。

次いで、円形広場を舞台にした三人の決闘シーンには「トリオ」（原題：Il Trio）が流れる。

ジョージ・ルーカスは、「トゥーコが墓場を走り回るシーンを何度も見て映画の編集のやり方を学んだ」という。

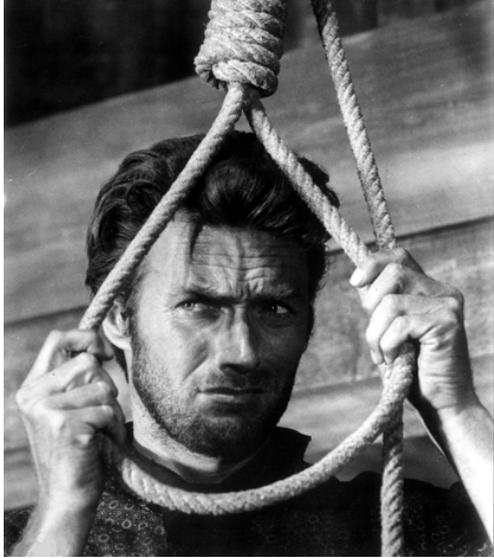
レオーネが影響を受けた映画監督に、ジョン・フォードや黒澤明などがある。

また、下積み時代に、ヴィットリオ・デ・シカ「自転車泥棒」（48）などネオレアリズモ作品の製作に携わったことも貴重な経験だと、後年に述懐している。

本作は、「ドル箱三部作」のうちでは最高の160万ドルの製作費をかけた超大作だったものの、前作までの泥臭いアクションと派手なガンファイトを期待したマカロニ・ファンからの評価は必ずしも高くなかった。まず、162分（イタリア公開完全版は175分）という上映時間の長さに閉口。そして、クライマックスに代表される叙情的な

描き方が、緩慢でスピード感に欠ける印象を与え、「マカロニ・ウェスタンではない」という評価に。

レオーネの独白線は変わらぬ「ウェスタン」（68）、「夕陽のギャングたち」（71）、「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ」（84）で、映像作家としての地位を確立していく。





続きは本書にてお楽しみ下さい